



# 氏貞公墓前祭 齋行

三月四日午前十一時より当大社第八十大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、氏貞公所縁の関係者が参列する中、滞りなく齋行された。

この墓前祭は氏貞公逝去四百年忌にあたる昭和六十一年に、当大社と菩提寺である承福寺との協議により神式と仏式で隔年毎に墓前祭を奉仕することが定められ今日に至る。

本年は当大社の当番年であり神職三名が出向し神式で執り行われた。前日からの雨で地面がぬかるむ中ではあったが、承福寺埜村住職、隣船寺田代住職、初代大宮司清氏公以来宗像家に仕え代々墓守りをされてきた占部家の方々、墓所のある上八今門地区の皆様、当大社高向宮司が参列し、氏貞公の威徳を偲んだ。

氏貞公の活躍した室町末期の九州の情勢は、大友・龍造寺・島津氏の三大勢力が鼎立し、又中国地方からは毛利氏が九州へ侵攻してきていた。大友・龍造寺・毛利氏が衝突する地は筑前及びその周辺であった。この地方に存在する宗像氏をはじめ諸勢力はその時々情勢を正確に判断し行動しなければ滅亡する時代であった。

困難な時代、神郡を守り抜いた氏貞公であったが天正十四年三月四日(一五六〇)辞世の句「人として名をかるばかり四十二年消えてぞ帰るものごとくに」を残し四十二歳で病没。世継ぎの男子が無かったことから、豊臣秀吉によって「宗像大宮司家」はお取り潰しとなった。大宮司家の断絶により、その御神威を広く知られた宗像大社も次第に衰微していくことになる。



# 宗像

## 4月祭事暦

### 1・2日 春季大祭

(1日目) 午前11時～一日祭

(2日目) 午前11時～二日祭

午前11時40分～

高宮祭、第二宮・第三宮祭  
宗像護国神社 春季大祭  
交通安全講社祭

### 15日 月次祭

午前10時～

高宮祭、第二宮・第三宮祭

午前11時～ 総社祭

### 29日 昭和祭

午前11時～

## 余滴

東日本大震災が起きてから一年となる三月十一日、日本全国で追悼式が行われた。地震が発生した午後二時四十六分には各地で黙祷が捧げられた。東京の国立劇場に於いては政府主催の追悼式が行われ、天皇皇后両陛下をはじめ、野田首相、被災者遺族の代表の方々から約千二百名が出席し、先の大震災における犠牲者に対して追悼の誠を捧げられた。天皇陛下は、二月に冠動脈バイパス手術を受けられ、御退院されたばかりであったが追悼式への御出席を強く望まれ、式に臨まれたその御姿に国民は感銘を受けたはずである。大震災から一年が過ぎたが、災害廃棄物の処分が進んでいない。環境省によると二月二十一日の時点で最終処分された災害廃棄物は全体の五割程との事である。一部の都道府県が受け入れを始めてはいるが、放射性物質が混入しているのではないかと不安が受入を鈍らせている。今までに経験した事のない、目に見えない恐怖が支援の道を妨げている。この現状に先日、外国のメディアから「震災直後の「絆」は日本人から失われた」と酷評された。この痛烈な言葉を我々は受け止めなければならない。震災直後、日本人の秩序ある行動と道徳心は世界から賞賛された。多くの国民は、失いかけた日本人でいる事の誇りと日本人が本来大事にしてきた「絆」を再認識したはずだ。天皇陛下の御心を御察しするならば国民挙げて瓦礫処理に取り組み、再度日本人の高い道徳心を表すべきと思う。(坂)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品



装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980  
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092  
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

# 松尾神社祭 齋行

## 新酒醸造を感謝

三月十九日、新酒醸造を無事に終えたことを奉告し感謝の誠を捧げる恒例の酒造報賽祭が、境内・末社 松尾神社で酒造関係者参列の下齋行された。

大前には醸造されたばかりの新酒が供えられ、宗像大社氏子会々長、当大社の御神酒を醸造している勝屋酒造(「榎の露」・伊豆本店(「神酒宗像」)の代表者が参列、午前十一時に祭典が



執り行われた。

修祓の後、昨年暮に仕込んだ新酒が芳醇に出来たと感謝すると共に今後酒造元が益々

栄える様祈念する祝詞が奏上され、各々玉串を奉奠した。

引き続き本殿においても報賽祭を齋行、宗像大社への神恩を感謝し、玉串を捧げて祭典は終了した。

松尾大神は古くより酒の神として知られ、酒造業を営む人々に篤く信仰されてきた。総本宮は京都に鎮座する松尾大社であり、御祭神は大山咋神と当大社辺津宮の市杵島姫命である。それが末社として鎮座される由縁である。

昔より「酒造りは、子育てと同じ」と言われ、経験と技術は無論、慈愛の心を持って酒造りしなければコクのある吟醸酒は出来ないといわれ、杜氏は自信と誇りをもって取り組んでおられる。若者の日本酒離れが進む昨今、私たち日本人は伝統のある清酒を大切にしたい。



# 色定法師坐像修理完了

## 神宝館にて展示再開

当大社が興聖寺(宗像市田島)から依頼を受けてお預かりしている色定法師坐像の修理事業が完了し、当大社神宝館で展示を再開する運びとなり、去る三月六日、坐像の搬入と展示作業が行われた。

色定法師坐像は、鎌倉時代初期、宗像社に在った宋版大藏経を底本として五千巻を超える仏教経典(一切経)を一人で書写するという偉業を成し遂げた、宗像社の社僧色定法師の坐像で、色定入滅前年の仁治二年(二二四二)の墨書銘を背面に持ち、裸形に実際の衣を着せた着装像である。その誕生に宋の文



福岡県指定有形文化財 色定法師坐像(興聖寺所蔵、浦観學氏写真提供)

家の対宋貿易の関連品として重要なものとなっている。

平成十七年に本像の肌表面に亀裂が確認されたため、糸島市の仏師浦観學氏にお預けし、平成十九年から専門家、興聖寺兼務住職田代義道氏、当大社学芸員をはじめ多くの関係者で協議を重ねながら、丁寧に着実に修理事業を行ってきた。修理は、造像当時の姿に近づけるという方針の下、坐像の解体↓樹脂含浸↓各部位補強↓組み立て↓下地(胡粉)塗り↓着色という工程で進められた。また、修理に合わせて坐像に着せる衣も新調した。

三月六日当日、修理に携わった関係者が集合し、坐像搬入↓開梱↓組み立て↓衣装を着↓写真撮影↓展示の作業を滞りなく行った後、最後に、興聖寺兼務住職田代氏の読経で厳かに事業の幕を閉じた。修理を終えた坐像は気品に満ち、崇高な眼差しからは、修行の一生を送った色定の篤い信仰心が伝わってくるようである。立派によりがえった色定法師坐像は必見です。皆様、是非お参り下さい。

化が影響することから、当時の宗像大宮司

# 宗像祖霊社 春季大祭 齋行

## 二月に新社務所も竣工



祭典風景

三月二十日春分の日、好天に恵まれる中、宗像祖霊社(宮司 越智珍友氏)で春季大祭が斎行され多くの参列者で賑わいを見せた。祭典には、当大社神職も献幣使として出向奉仕した。大祭は、毎年春秋の彼岸の中日、「春分」「秋分」の日に執り行われている。

祖霊社とは、祖先の御霊をお祀りするお社である。宗像祖霊社は、当大社に隣接して鎮座しており当大社の末社格でもあり、神徒は宗像市を中心に約四百戸を数える。



新社務所

尚、老朽化していた社務所を神徒が協力し建て替え、二月に新しい社務所が竣工している。

# 高向宮司 階位『浄階』身分『二級』に昇進

高向宮司には、この度二月一日付で階位「浄階」、神職身分「二級」に昇進され、三月十四日に神社本庁において授与式が行われました。

高向宮司は、昭和五十二年に当大社に奉職以来、神明奉仕に努めると共に神社

の護持運営に力を注がれ、平成二十一年に宮司に就任致しました。

又、神社本庁参与、県神社庁理事など神社界においても多くの役職を歴任しており、

斯界の興隆に長年努めてきたことが今回の昇進と成ったものと存じます。

階位証



高向正秀

浄階ヲ授ク

平成二十三年三月一日

神社本廳

福岡県宗像市田島

宗像大社宮司高向正秀

神職身分(二級)とする

平成二十四年三月一日

神社本廳

## 人事異動(神職) 3月25日付で人事異動を下記の通り行いました。

宮司	高向 正秀	神宝館々長
欄宜	高向 敬之	社務本局長
欄宜	高向 敬之	御造営室長(兼)
欄宜	高向 敬之	庶務部長
欄宜	高向 敬之	文化財管理事務局長(兼)
欄宜	高向 敬之	氏子青年会事務局長(兼)
欄宜	高向 敬之	御造営室員(兼)
欄宜	高向 敬之	経理部長
欄宜	高向 敬之	海洋分局長
欄宜	高向 敬之	祭儀部長
欄宜	高向 敬之	宗像護国神社管理主任(兼)
欄宜	高向 敬之	宮司兼務社管理主任(兼)
欄宜	高向 敬之	海洋分局事務局長
欄宜	高向 敬之	御造営室員(兼)
欄宜	高向 敬之	祭儀部儀式課長
欄宜	高向 敬之	氏子会幹事(兼)
欄宜	高向 敬之	祭儀部事務課主任
欄宜	高向 敬之	宗像大社菊花会事務局長(兼)
欄宜	高向 敬之	庶務部庶務課主任
欄宜	高向 敬之	氏子会幹事(兼)
欄宜	高向 敬之	御造営室員(兼)
欄宜	高向 敬之	主基地方風俗舞保存会事務局長(兼)
欄宜	高向 敬之	庶務部庶務課員
欄宜	高向 敬之	経理部会計課主任
欄宜	高向 敬之	氏子青年会事務局員
欄宜	高向 敬之	庶務部広報課主任
欄宜	高向 敬之	氏子会幹事(兼)
欄宜	高向 敬之	御造営室主任
欄宜	高向 敬之	経理部庶務課主任(兼)
欄宜	高向 敬之	宗像大社菊花会事務局員(兼)
欄宜	高向 敬之	御造営室員
欄宜	高向 敬之	宮司秘書(兼)
欄宜	高向 敬之	庶務部庶務課員(兼)
欄宜	高向 敬之	経理部庶務課員
欄宜	高向 敬之	氏子会幹事(兼)
欄宜	高向 敬之	主基地方風俗舞保存会事務局員(兼)
欄宜	高向 敬之	庶務部広報課員
欄宜	高向 敬之	宗像大社菊花会事務局員(兼)
欄宜	高向 敬之	祭儀部事務課
欄宜	高向 敬之	氏子会幹事(兼)
欄宜	高向 敬之	祭儀部儀式課員
欄宜	高向 敬之	氏子青年会事務局員(兼)
欄宜	高向 敬之	祭儀部儀式課員



公試中の護衛艦「あきづき」

## 宗像大神を奉斎 海上自衛隊護衛艦「あきづき」入魂式

去る三月二日、三菱重工・長崎造船所(長崎市)に於いて護衛艦「あきづき」の入魂式が海上自衛官並びに関係者約百名参列の下、当大社神職三名奉仕により執り行われ、同艦に宗像大神が奉斎された。

祭典は、同艦格納庫で行われ、齋主が同艦の武運長久並びに国家安泰を祈念する祝詞を奏上、引き続き艦内主要部分の清祓を行い、玉串拝礼では、ぎ装員長 二等海佐 高田昌樹氏ほか関係者が艦の安全を祈った。

「あきづき」という艦名は本艦にて三代目にあたり、一代目は昭和十七年に舞鶴工廠にて竣工、二代目は昭和三十五年に三菱長崎造船所にて竣工している。本艦は、従来の汎用護衛艦の任務に加え、弾道ミサイルの警戒・対処に従事するイージス艦を航空機等の脅威から防護する任務が与えられている。防空能力が強化されており広域捜索・追尾・目標処理能力の向上が図られている。同艦は、三月十四日に正式に就役する。「あきづき」の今後の武運長久を祈念する。

## 宗像大社菊花会・(社)全日本菊花連盟九州地区 新年総会並びに菊作り講習会開催

二月二十五日、宗像大社菊花会の新年総会が玄海ロイヤルホテルで開催され、千々和会長以下約八十名の会員が出席し盛大に行われた。総会では、今年十一月開催の第四十二回西日本菊花大会日程について等の議論がなされ、来年度の日程が決定された。

総会終了後、(社)全菊連審査員研修会が行われ、(社)全菊連・石原睦生理事により「公認審査員の心得及び審査基準について」と題して、資料に基づき審査基準等を詳しく説明頂いた。

続いて、菊作り講習会が行われ、第一部が宗像大社菊花会副会長 石原睦生先生により「私の菊作り」、第二部が元福岡県園芸研究所所長 松川時晴先生により「菊の開花整理並品種改良について」と二名の講師をお招きして講演頂いた。石原先生は実践の栽培に即した面から、松川先生は学術的な面からそれぞれ異なる観点からの講義に会員は真剣に聞き入っていた。

最後の質問コーナーは、定刻を過ぎても受講者からの質問が絶えず、惜しむように終えられ、その

後の懇親会では、松川先生も交え、会員一同互いの菊作りの話等で盛り上がり、盛大裡の内に幕を閉じた。



# 宗像大社横『海の道むなかた館』オープン

## 宗像市 郷土文化学習交流課

四月二十八日、宗像大社横(旧アクシス玄海)に郷土文化学習交流館「海の道むなかた

館」がオープンします。海の道むなかた館は、むなかたの歴史的魅力を紹介するとともに、

福岡県と福津市が共同で世界遺産登録を進めている「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の活動拠点施設です。

むなかた館では、常設展示と特別展示に分けて展示を行います。常設展示は「海の道」をオープン時のテーマに旧石器時代から現在までのむなかたの歴史をわかりやすく紹介します。いまだむなかたには、海の道を物語る痕跡が残っており、多くの遺跡や遺物などにみ

ることができ、初公開となるものも多数あります。展示を通して古代のむなかたにロマンを感じてみてはいかがでしょうか。世界遺産の登録を進めている「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、沖ノ島祭祀遺跡とその関連遺産と国内、国外の世界遺産などを、パネルでわかりやすく解説しています。シアタールームでは、3Dメガネをつけて、沖ノ島を音と映像でリアルに体験できます。また、シアタールームの入り口では中村研一画伯の描いた沖ノ島を公開します。

特別展示は期間を設けてテーマに沿ったものを展示します。オープン時のテーマは沖ノ島祭祀前夜で、平成二十二年に国の史跡に指定された田熊石畑遺跡の墓域から出土した十五本の武器形青銅器をメイ

ンに、弥生時代のむなかたにスポットをあて展示をおこないます。宗像地域にはみられない甕棺(かめかん)も展示予定です。また、田熊石畑遺跡出土武器形は、今回の特別展示の目玉となっており、錆止めなどの保存処理を終え、約二年ぶりに十五本揃って公開されます。武器形青銅器が十五本勢揃いした姿は圧巻で、当時のむなかたの繁栄ぶりを彷彿

とさせます。また、むなかた館ではさまざまな体験を通じて歴史に触れることもできます。勾玉づくりや、古代銭の铸造体験などは人気の高い体験学習です。オープンからゴールデンウィーク中は講演会や無料体験学習など連日オープニングイベントを開催します。ぜひ、オープンの際には海の道むなかた館へお越しください。





# 神前結婚式挙式者芳名

(平成23年12月～24年3月)

末長いお幸せをお祈り致します。

24日	17日	11日	3月4日	25日	2月8日	29日	1月17日	4日	12月3日
伊東 正浩 様	本田 悠馬 様	大坪 弘和 様	神谷 和幸 様	深田 航洋 様	森口 昭平 様	松永 亮介 様	高橋 友貴 様	高橋 稔 様	早坂 竜一 様
秦 啓子 様	松田 美由紀 様	渡邊 有希 様	越戸 俊和 様	鶴田 和恵 様	兒玉 智恵美 様	谷口 睦 様	井上 詩織 様	福田 聡子 様	末崎 理恵 様
福岡市	熊本県菊池郡	広島県三原市	宗像市	直方市	北九州市	福津市	東京都目黒区	飯塚市	北九州市
									静岡県藤枝市



今回の古写真は、昭和十五年に神祇院と福岡県の共催で当大社にて開催された神職講習会の模様です。

写真①は、陸軍軍人による講義風景。演題は、写真右に写っているように「現代戦ノ特質ト思想戦」。写真②は「避難演習」。既に昭和十二年から日中戦争も始まっており写真①②共に当時の世相を感じさせます。写真③は、木刀を持ち剣術の練習でしょうか？現代の神職講習会では中々目にする機会がない光景です。

## 古写真探訪 戦時中の 神職講習会(辺津宮)

NO.7



昭和十五年当時の境内風景。松の大きさが茂り、まさに「辺津宮」と思わせる一枚です。

(続)

# 浪の寄物

265

いしいただし



今昔物語の、「能登国鳳至孫得帯語第十二」と「能登守依直心息国得」語第四十六は、本来

一つの話が二つに分かれたものであろう。十二話と四十六話を合わせてみる。少し鳳至の孫の話を紹介すると、頃は平安時代・能登国の鳳至の孫が凶兆を避けて、従者と連れだち海辺に出で、ここかしこ歩き疲れたので、浜に横になっていたら、

正午ごろ前方の海を見て驚いた。海面が盛り上がった。海迫って来る。しかし連れの従者は一向に、迫ってくる恐ろしい波が見えない。男は観念し、両手を合わせてすわり込んだ。だが波は襲いかかるように近づいて、



やがて小さくなり、とうとう見えなくなりました。

そして波打ち際に目をやると、黒く丸い物が漂っている。

従者も気付き小さな塗物の桶であった。ここからの事がリアルに描写されている。「近寄来タルヲ、弓ヲ以テ搔キ令寄テ見レバ、平ナル桶ヲ繩ヲ以テ細力ニ結タリ。取上ゲテ、繩ヲ切テ開テ見レバ、油ニ油シタル紙

ヲ以裏タリ。藤ヲ以テ但タル箱ヲ結タリ、其レヲ解テ箱ヲ開テ見レバ、漆塗タル箱在リ、其糸ヲ以テ供タリ。其レヲ開テ見レバ、犀ノ角ヲ切テ重ネツ、四方ニ結ゲテ入タリ、取出テ見レバ、

二結ゲテ入タリ、取出テ見レバ、帯ニ荒造テ、三腰方斬を入タル也ケリ。「嚴重にしかも丁寧につつまれた様子が分かる。「これは天が自分に賜わろうとして、あのおつげがあつたのだ」と言つて、帯を持ち帰った。

その後、家は隆盛をむかえ大福長者となり、いつしか鳳至の孫と呼ばれてその生涯を終えた。

第十二では、その人に男の子がおりその帯を相続し、父と同様に長者として生活していたが、国司の慶滋為政がこの帯の噂を聞き、何かと無理難題を言つて責め立て、また大勢の家来を引きつけて難癖をつけて、長期間逗留したため、

## 特別公開「歌人たちの競演」

### 宗像大社所蔵五組の三十六歌仙図扁額

桃山～江戸時代にかけて、宗像大社へ奉納された三十六歌仙図扁額を特別公開します。年に一度、期間限定の貴重な特別公開。和歌の趣、大和絵の美が融合する雅の世界をどうぞ堪能下さい。

会期 平成24年4月14日(土)

～6月3日(日)

会場 宗像大社 神宝館 3階展示室

拝観料 ●大人 500円

●大学・高校生 300円

●中・小学生 200円

◎15名以上は1名に付100円引

※4/1～5/6迄は、「海の道むなかた館」開館記念として宗像市「春の観光キャンペーン」ガイドに付属のクーポン券を持参された方は、大人300円、大学生以下100円で拝観出来ます。

※展示替え作業のため下記日程で開館状況を変更します。どうぞご了承下さい。

会期前：平成24年4月12日(木)、13日(金)

神宝館1階、2階展示室を開館。拝観可。

会期後：平成24年6月4日(月)、5日(火)

神宝館1階展示室のみ開館。拝観可。



小野小町 延宝八年 黒田光之奉納

長者は帯を首にひっかけて逃げ出した。長者は各地を転々とするが帯のおかげで、ひどい生活をする事はなかった。為政の国司の任期が終わり次に源行任が国司になったが、長者は鳳至には戻らなかった。

次に藤原実房という人が国司となり、長者は各地をさまよい、年もとつたので、国司のもとへ行き、帰国したい旨を伝えた。国司は長者にいろいろな物を与えたので、持っていた帯を国司に渡した。そ



の帯は関白殿に献上された。今昔はこのように最後を結んでいる。「此レ微妙キ財ナレバ、浪トモ見エケル也ケリ。其モ前世ノ福報ニ依コソ、其帯得メントナン語り伝ヘタルヤ。」

第六〇八回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



福津市 若木台

山崎 公俊

屯宮のさくらの空に飛燕ありおーい沖ノ島通つてきたか  
海辺を飛ぶ燕に呼びかける作者、爽やかな気分の良い  
歌だ。一・二句は「さくら咲く屯宮の空に」としては。

うきは市 浮羽町

向 則正

ほろ酔の列車降りし時転びるき起こしくれたは高校生なり  
ほろ酔い気分の作者か。(ほろ酔いで列車を降りて転び  
しを起こしくれたり男子(女子)高校生)と四句切れに  
してみた。

北九州市 八幡西区

豊田 光子

柀に鯛の頭を手に刺し福豆を手を離したてたり  
季節の行事を大切に暮らす作者。福豆を手にとあるが  
豆撒きをせず鬼を招き入れるお宅なのかを知りたい。

宗像市 土穴

山本 静子

鬼の顔初めて出土す牙あれど角無き鬼ぞ平安の鬼  
榎原で出土した土器の鬼の絵、角が無い鬼に驚いた感  
じがよく出ているが、「鬼」の重複を二回にとどめる工  
夫を。

福津市 中央

池浦千鶴子

聳え立つマンションはやも黒すみぬ茜移ろう窓を放てば  
暮れ方の微妙な明暗を捕らえた作者の目が良い。三句  
は「暮れ始む」、結句は「開ければ」とするほうが自然。

宗像市 池田

森 龍子

底冷えの著き夕ぐれけんちん汁は祖母直伝の味に仕上る  
温かいけんちん汁は寒い日には何よりのご馳走。結句  
を「仕上げる」とすると台所に立つ作者の姿も見えてく  
る。

宗像市 日の里

大和美由紀

ぼかぼかの冬日の中の枯草に天道虫の紅色光る  
天道虫の紅一点が美しい。一・二句の言葉の繋がりをな  
だらかにへぼかぼかと冬の日のさす〜とすると下の句  
が引き立つ。

福津市 若木台

野間 精一

庭の鉢に培ふスナック豌豆が蝶止まるがに花をつけたり  
可愛いスナック豌豆の花にっこりする作者が見える  
よう。四・五句を入れ替え、蝶に似た花を強調しても良い。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

時雨過ぎ落ち葉濡れたる山坂に人のすべりし靴の跡あり  
ミステリーの一場面のような歌。滑った人の安否が気  
になる。場面を投げ出すような詠み方が内容にあつて  
いる。

宗像市 東旭ヶ丘

天野 玲子

みどり児の頭ほどあるザボンの実しばらく両手に重さ確かむ  
ざぼんを抱えた作者の胸に去来するものは、かつての  
子供たちかもしれない。想像の広がる詠みぶりが良い。

宗像市 田久

巻 桔梗

いたいたしふたり欠けりて老い残る俳優たちの再演ドラマ  
ドラマの再演を見て同じように感じたことがある、共  
感できる歌。ドラマの題があると良いのだが。

選者詠

クロインのソメイヨシノはほのぼのと

咲きのぼりゆく列島を北に

来世は豆になりたしはらからと

蔓でむすばれあまた実さげて

第五八二回

俳句作品集

宗像市 日の里

花田いつ枝

送電線の続く嶺々春の雪

編集後記

広報課在籍僅か一年ですが、この度三月二十五日付を以て御造宮室へ異動となりました▼社報を担当した一年間、編集作業を通じて改めて神社について勉強させて頂いたと思います。毎月二十五日前後は、締切に追われドタバタし、印刷会社の担当の方には特に迷惑を掛けたと思います。又、紙面に自分の色を出そうと考えましたが「古写真探訪」シリーズが精一杯でした▼異動する御造宮室は、平成二十五年度に予定されている本殿のお屋根替え等、今後十年間に亘って行われる沖・中・辺津宮の再整備を担当する為、新たに立ち上げられた部署です。不安な面はありますが、御造宮という一大事業にこれから携われるのは有難く思います▼今後とも、社報「宗像」を宜しく願います。(松)

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三二  
電話 (〇九四〇)六一二二二二(代)

発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延・松林拓

制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円